

国際小児保健研究会(JICHA) 2012 年度、2013 年度勉強会

2014.4.16

窪田祥吾¹⁾ 堀内清華²⁾

- 1) JICA ラオス国保健セクター事業調整能力強化フェーズ 2
- 2) JICA ラオス国母子保健統合サービス強化プロジェクト

国内外において生活習慣病をはじめとした非感染性疾患(Non-Communicable Diseases; 以下 NCDs)の予防は大きな課題となっている¹⁾。小児期の肥満や非健康的な生活習慣は成人における肥満や生活習慣病発症のリスク要因となり^{2) 3)}、小児期より健康的な生活習慣を身に付け、肥満を解消、軽減することが重要である。日本においても小児の約 1 割が肥満と言われている⁴⁾。そのため小児生活習慣病の現状や課題、対策に関する知識や認識を深めるため、勉強会を開催してきた。

国際小児保健研究会(JICHA)小児非感染性疾患勉強会実績

■2012 年度第 1 回勉強会

非感染性疾患に関する国際的潮流 (坂元晴香氏 厚生労働省)
小児の NCDs (加藤則子氏 国立保健医療科学院)

■2012 年度第 2 回勉強会

途上国における NCDs の 現状と各団体の取り組み (籠田綾氏 JICA)
WHO における NCDs の議論 (坂元晴香氏 厚生労働省)
日本医療政策機構 の NCDs に関する取り組み (窪田和巳氏 日本医療政策機構)
医療現場でみる小児 NCDs の現状 (窪田祥吾氏 熊本赤十字病院)

■2012 年度第 3 回勉強会

健康日本 21 と小児生活習慣病対策 (山縣然太郎氏 山梨大学大学院)

■2013 年度第 1 回勉強会

国際協力の視点から見た我が国の学校保健
(山崎嘉久氏 あいち小児保健医療総合センター)
模擬診察を通じた幼児に対する健康教育 (遠藤理紗氏 聖マリアンナ大学)

2012 年度第 1 回勉強会では、非感染症疾患に関する国際的潮流および日本の小児の NCDs に関する現状を学んだ⁵⁾。

2012 年度第 2 回勉強会では、国内外における NCDs の具体的な取り組みを取り扱った。まず、途上国における NCDs の概況や NCDs に対する主要援助機関の取り組み、スリランカにおけるプロジェクト例を含めた JICA の NCDs への取り組みが紹介された。次に、世

界における NCDs の現状と WHO においてなされている NCDs 関連の議論・対策に関するタイムリーな話があった。そして、日本医療政策機構で行っている活動として、日本国内の NCDs に関連したステークホルダーが集まるプラットフォームの構築が紹介された。最後に、医学的観点から、小児生活習慣病予防の介入をいつ、どのように行うべきかという問題提起がなされた。

2012 年度第 3 回勉強会の「健康日本 21 と小児生活習慣病対策」では、すこやか親子 21 の中間評価結果を基に日本の小児保健の現状が紹介され、第 2 次健康日本 21 の計画を中心に今後の展望が示された。

2013 年第 1 回勉強会では学校保健や幼児への健康増進プロジェクトといった年代別の取り組みを見た。「国際協力の視点から見た我が国の学校保健」では、JICA 研修員受入事業、各国の学校保健の現状や活動、そこから見えてくる日本の学校保健の特徴などが話された。また、愛知県碧南市で実施されてきた学校保健を通じた生活習慣病予防対策についても紹介された。「模擬診察を通じた幼児に対する健康教育」では、全国の医学生による幼児を対象とした疑似診療を通じた健康教育活動の紹介があった。

第 42 回国際小児保健研究会では、小児の生活習慣病対策をテーマにシンポジウムを開催し、国内外の小児生活習慣病の政策と課題、地域的取り組みの実際などに関する演題発表、討論を行った⁶⁾。

さいごに

国際小児保健研究会(JICHA)は、過去 2 年に計 5 回の勉強会や研究会を通じて、国内外における小児の NCDs の現状や各ステークホルダーによる対策、今後の課題について話し合ってきた。国内外において小児における非感染性疾病対策の重要性が高まる中、地方自治体や民間団体は様々な対策を行っている。一方、日本における取り組みは地方自治体によって差が大きく、健康の地域差は途上国同様、日本でも重要課題の一つである。今後は、地方自治体の取り組みの評価、地方自治体や民間団体間の連携、都道府県のリーダーシップなどを通じた対策が期待される。

このように小児の NCDs の課題は国内外に共通するものであり、国内の経験を国際社会において役立て、また海外における経験から日本が学ぶことが出来る分野である。ここに報告した勉強会は、国内外で活動する人達やそれを目指す人々が、各々の経験を共有し、今後の活動に役立てる機会になったと考える。

1) WHO Global status report 2010

2) Mossberg HO. 40-year follow-up of overweight children. Lancet 491-493, 1989.

3) 三浦克之、中川秀昭:小児肥満と成人肥満の関係は. 小児内科 38:1535-1538, 2006.

4) 厚生労働省「国民栄養調査」

5) JICHA ジャーナル第 2 巻 1 号, 2012

6) JICHA ジャーナル第3巻1号, 2013